

平成 23 年度 博士前期課程学位論文要旨

学位論文題名

特別養護老人ホームにおいて
看護師が高齢者の死期が近いと判断したサインと看取りを可能にする要因

学位の種類： 修士（看護学）

人間健康科学研究科 博士前期課程 人間健康科学専攻看護科学域

学修番号 10894609

氏 名：深澤 和恵

（指導教員名：勝野 とわ子）

注：1,000 字程度（欧文の場合 300 ワード程度）で、本様式 1 枚（A 4 版）に収めること

要旨：本研究の目的は、看取りを積極的に行っている特別養護老人ホーム（以下特養）において、看護師が高齢者の死期が近いと判断し、行っている看取りのケアを明らかにすることと、看取りを可能にしている要因を明らかにすることである。関東圏内の特養に勤務する看護師 8 名を研究参加者とし、半構造的面接法を用いてインタビューを行い、得られたデータを内容分析法を用いて質的に分析した。その結果、看護師が高齢者の死を予測した時期は 2 段階あることが伺えた。第 1 段階は【食事摂取量低下】、【経口摂取困難】、【尿量減少】、【体重減少】、【体力低下】、【顔色の悪さ】、【目力のなさ】、【死臭を感じる】、【反応の低下】、【傾眠がち】、【活気がない】、【生きることへのこだわりがなくなる】、【日々の観察からわかる変化】、【回復と悪化を繰り返す】、【回復しなくなる】、【様々なものを兼ね合わせて総合的に判断すること】、【言葉に出来ない変化】が抽出された。第 2 段階は【尿量減少】、【血圧低下】の他 7 カテゴリー抽出された。高齢者に対する看取りに向けてのケアについては、10 カテゴリー【日々の状態把握】、【声をかけること】、【そばにいて 1 人にさせない配慮】、【本人に寄り添うこと】、【苦痛なく逝けるための援助】、【心を満たす身体的援助】、【窒息予防】、【心を満たす心理的援助】、【家族との最期の時間をつくること】、【自然な死を見守ること】が抽出された。家族に対するケアとして、3 カテゴリー【家族の思いを尊重すること】、【家族への十分な説明】、【お別れの時間をつくること】が抽出された。特養で看取りを可能にするには、【看護師の能力】、【本人・家族の看取りの希望】、【協力的な他職種の存在】、【組織的な方針】、【看護師の看取りに対する考え】の 5 カテゴリーが抽出された。高度医療機関ではない特養では、限られた医療機器と看護師の観察力で高齢者の死が間近に迫っていることを判断していた。医療機器が限られているからこそ、看護師の観察力が非常に重要であり、医療機関で患者の看取りを行った経験を持つ看護師の存在が必要であることが示唆された。家族が特養で看取ることへの不安から最期に迷い、看護師に救急車を呼ぶよう頼んでしまうという事態に至らないためには、看護師が家族に十分な説明を行い、納得して特養という場で高齢者を看取ることができれば、高齢者本人・家族の意向とは関係なく、高度医療機関への救急搬送が減少すると同時に高齢者を看取ることが可能な高齢者介護施設が増加する可能性があると考えられる。